

## 令和3年度第2回みきっ子未来応援協議会 議事録

【日時・場所】 令和3年12月14日（火） 19:00～20:30  
市役所5階 大会議室

### 【出席者】

<委員 16名> 【会 長】 百瀬和夫  
※敬称略 【副 会 長】 星川祐将、北井保美  
【委 員】 藪本宏幸、中尾将浩、奥野敬子、赤松宏朗  
益田俊幸、来住哲州、谷累理子、奥村浩哉  
計倉哲也、浅和直子、岡本典子、神吉知子  
田中啓規

【教育総務部】 本岡忠明（部長）  
[生涯学習課] 河端 康（課長）

【教育振興部】 横田浩一（部長）  
[学校教育課] 田中智美（課長）  
[教育・保育課] 辻田政顕（課長）  
岩崎国彦（主幹）  
伊原幸代（課長補佐）  
[教育センター] 橋本泰一（所長）

【市民生活部】 安福昇治（部長）  
[人権推進課] 平井隆禎（課長）  
[子どもいじめ防止センター] 平田美香（所長）

【健康福祉部】 井上典子（部長兼福祉事務所長）  
[障害福祉課] 山本容子（課長）  
[健康増進課] 後藤洋子（課長）  
[子育て支援課] 中西 進（課長）  
近藤美紀（副課長）  
藤田恵子（係長）  
大石恵子（係長）  
三木清香（主任）  
岡本幸子（主事）

### 1 開会

### 2 あいさつ

井上健康福祉部長

皆さん、こんばんは。みきっ子未来応援協議会第2回となりますが、1回目の8月19日は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により書面開催としましたが、たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました。

皆様のご意見を、市政に少しでも活かしていきたいと思っております。今日は短い時間になると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 委員・事務局自己紹介

#### 4 会長あいさつ

関西国際大学から来ております百瀬と申します。

開催出来て本当に良かったと思います。今日は、幼保一体化計画の見直しという議題で、各部会の開催状況についても含めて、ご報告があると聞いております。各委員様におかれまして、それぞれ所属されている団体の立場もあるでしょうし、1人の市民としての目線もあると思います。ご協力いただいて良い話し合いができればと思っておりますので今日はよろしくお願いいたします。

### 5 議事

#### (1) 幼保一体化計画の見直しについて

事務局（教育・保育課）

それではまず、資料「令和3年度第2回みきっ子未来応援協議会就学前教育・保育部会の取組」という資料で説明をさせていただきます。

令和3年11月30日にこの部会を開催しております。幼保一体化計画の見直しの中で委員からは、本当に保育士が確保できるのかという質問をいただいております。一方で、色々な事業をする中で民間とも協力して、状況が良くなっているのご意見もいただきました。そして、保育士確保の取組として、民間と公立合同の就職フェアあるいはハローワークと協力しながらの就職面接会や令和3年11月より潜在保育士の確保ということで、みっきい保育教諭登録制度を始めています。

さらに、従来から修学資金貸与制度、アルバイト体験事業を展開する中で、しっかりと保育士確保を進めております。委員の中には、やはり他市に比べてしっかりと就職祝い金等、色々な事業をして欲しいというようなご意見をいただきました。

今後この幼保一体化計画は、12月末からパブリックコメントを行った後に、市が決定をさせていただきます。

資料「みきっ子未来応援協議会就学前教育・保育部会を受けて」、「みきっ子未来応援協議会 第2回就学前教育・保育部会を受けての補足資料」をご覧ください。

先日の部会で、青山7丁目の開発計画について課題が上がり、色々質問がありましたが、今のところ具体的な計画が示されていないということで、見直しの人数には反映できない状態でありました。

ただし、松本部会長から再検討という宿題が出たので、そちらについても一度調査しました。新聞にも、部会の記事が掲載されまして再検討という文言も入っていましたが、幼保一体化計画自体を見直すのか、緑が丘東幼稚園の方針を見直すのか、それとも青山7丁目を見直すのか、色々な受け取り方があったので、松本部会長に再検討の意味を確認させていただきました。

その結果、緑が丘東幼稚園の廃園後、青山 7 丁目の開発により例えば子どもの数が 20 人増えた場合、就園できる手立てがとれるのかということが部会長からの投げかけでありました。

そこで、人口の考え方について調査に入りました。資料「みきっ子未来応援協議会就学前教育・保育部会を受けて」1 枚目の 3 人口の考え方をご覧ください。人口の考え方として、青山 7 丁目の開発計画に伴い、3 歳から 5 歳児の人口が 20 人増えた場合、これまでの市全体の傾向として人口の約 20%が 1 号認定児の割合でしたので、4 人と仮定させていただきました。

カラーの補足資料の表 1 をご覧ください。こちらの方に具体的な数値を載せています。上の方に 3 歳から 5 歳児人口と書いてあります。これは当初計算していたよりも 20 人多い想定で、当初は 164 人としていたのですが令和 4 年度でいうと、今回 20 人の想定で 184 人、その下段の 1 号認定児予測数ということで、3 歳から 5 歳児人口が 184 人の中の 20%ということで 37 人、つまり令和 4 年度緑が丘東小学校区に 184 人お子さんが住まれる場合、そのうちの 37 人が 1 号認定として、それを近隣の園が受け入れた場合どうなるかということを示しています。

下に清心、緑東幼、りんでん、あけぼの、清心緑と 5 つの園を挙げています。この 5 つの園は、過去において受入実績のある園で、横にパーセンテージが書いてありますが、清心を 30%、緑東幼を 30%というように 1 号認定児の中での大体の受け入れの割合を過去の実績から令和 4 年を見ていただくと 11 人、11 人、7 人、4 人、4 人という割合で、入るのではないかとこの予測のもと計算をさせていただきました。

その結果になります。次の表 2 をご覧ください。まず一つ目の仮定です。緑が丘東小学校区の児童の受入園を 1 園で考えた場合、清心認定こども園が 4 人増の想定で、定員数を補うことができるかということ計算し直したところ、過不足児童数のところに黄色の色づけがあると思います。令和 4 年についてはマイナス 1 となっていますが、この時は緑東幼があるので補うことができ、過不足数はありません。

ところが、令和 6 年から 9 年の間については、緑東幼が廃園になった場合、1 人から 3 人の不足が生じるという結果が出ました。

次のページの表 3 をご覧ください。次の過程は同じ緑が丘東小学校区の児童の受入園を 4 園で考えた場合です。4 人ずつ増えた場合という想定ですが、緑東幼が廃園した場合に清心、りんでん、清心緑、あけぼのの 4 園で補えるかどうかという計算をさせていただきました。その合計が一番下に児童数として上がっています。

その結果、今示している 4 園の定員数がこのままであれば、令和 6 年と令和 7 年に 1 人ずつの不足が生じるという結果となりました。この結果を踏まえて、三木市保育協会民間部会に協議をいたしました。

資料「みきっ子未来応援協議会就学前教育・保育部会を受けて」2 枚目の 5 考察をご覧ください。この状況を民間部会にお知らせしたところ、今回の質問のように、就学前児童の人口増加が見られ、入園を希望される場合には、近隣の民間認定こども園に余裕のある 2 号認定児の枠を 1 号認定時に変更するなど、必ず入園保留が出ないよう協力するという回答を得られましたので、不足は生じますが、それを必ず民間園が計画を変えながら補うと聞いております。

以上、部会を受けての宿題に対する報告を終わらせていただきます。

## [質疑応答]

### 質問

先日の就学前教育・保育部会で、1号認定児の受入予測の考え方として、小学校区で考えるということでしたが、資料「みきっ子未来応援協議会 第2回就学前教育・保育部会を受けての補足資料」を見ると小学校区だけでなく、第2園区に広げた考え方も載っていました。これは、先日市が示した受入予測の考え方と矛盾するのではないのでしょうか。

### 説明

事務局（教育・保育課）

資料「みきっ子未来応援協議会 第2回就学前教育・保育部会を受けての補足資料」の（表2）を見ると、緑が丘東幼稚園廃園後、清心認定こども園だけでは、1号認定児の受入に不足が生じる年がありますが、資料「幼保一体化計画の見直しについて」の11ページをご覧くださいと、2号認定児の受入必要数に対して定員数は随分余っていることが分かります。この2号認定児の定員の一部を1号認定児に替えながら、不足を補っていけるものと考えています。

### 質問

その答えは1号認定児を住所地の小学校区で受け入れを考えるとという答えになるのでしょうか。

### 説明

事務局（教育・保育課）

清心認定こども園は、緑が丘東小学校区に当たり、問題ないと考えています。

補足資料については、松本先生の質問に対し、様々な想定で行うために、資料には載っていませんが、小学校区1園で考えた場合だけでなく、2園、3園、4園といくつかのパターンを検証しました。そのうち、定員不足が最も少ないパターンと最も多いパターンを資料として提示しました。本来は、1号認定児は小学校区で受け入れる考え方があります。

### 意見

育休認定が始まり、1号認定児の予定だった児童が2号になっているケースがあるようです。今後、1号認定児の数が少なくなるのではないのでしょうか。幼保一体化計画にも影響してくると思いますので、令和4年も就園児童数等を確認していただけたらと思います。

### 説明

事務局（教育・保育課）

令和4年につきましては、実績が出た時点で、状況等を報告させていただきます。幼保一体化計画の中でも、毎年就学前の児童数や入園希望者数の動向も見えていきながら、今後どのように進んでいくのか注視をしながら考えていきたいと思っております。

### 質問

入園時に、保護者の意思とは別に認定を変えさせられて、行きたい園に行けない事例を

いくつも聞いています。ということは、実際に入れていないということではないでしょうか。そのために保護者はさらに不安になっています。

また、共通カリキュラムの導入や小学校との連携等その後どうなっているのか、本当に効果は出ているのでしょうか。さらに、検証を数値で表していますが、人を数にして箱に納められているみたいで残念です。園に行きたい人の気持ちはそこには表れていないと思います。

説明

事務局（教育・保育課）

全員が第1希望の園には入れていませんが、今の段階で令和4年度の1号認定児は全員入れる予定となっています。

共通カリキュラムについては、毎年監査か評価で市内全園を市職員と大学教授等で訪問しています。今後も同様に教育・保育の質の確保を行っていきます。

小学校との連携については、今後も校長会と連携をしながら連携を推進していきたいと思えます。

意見

三木市の共通カリキュラムが本当に浸透していますか。民間園で外遊びの時に自由に遊具を使えない園があるとお聞きしました。三木市が進めている主体的に活動するということがまだ浸透していないのではないのでしょうか。民間に公立の良さを伝えていく意味でも、公立園の存続は必要だと思います。

## （2）各部会からの報告について

説明 子育て環境部会

部会長

### ①子ども食堂について

令和3年度子育て環境部会は、子ども食堂について話をさせていただきました。三木市として、子どもの孤食や学習の機会が少なくなってしまう問題を解決していくための手段として子ども食堂を考えていると説明があり、全地区にどのように広めていくのいいか、そのためにどのようなことが必要かということを中心に話し合いをしました。

まず一つは、どう参加しやすい形にしていくかについてです。子ども食堂というと、貧困やかわいそうな子どもというようなイメージを持っている方もおられるのではないかと、子ども食堂という名前をつけてしまうがゆえに少し行きにくくなってしまったり、子ども食堂に行く子どもたちが、そういった目で一部の方から見られてしまう可能性があるのではないかという意見もありました。そのために、地域食堂というような子どもだけではなく、大人も含めて地域の色々な方が参加できる場所にしていくことで、実際に支援が必要な子どもに少しでも来ていただくことが、いい形ではないかという話が挙がりました。

また、三木市子育て支援団体活動促進事業補助金を活用されている団体が多いのですが、実際それだけではなかなか難しいこともあり、子ども食堂独自の補助制度を確立していくことが必要である。

説明 要保護児童部会

部会長

②令和2年度三木市の要保護児童の現状及び令和3年度要保護児童部会取組状況について

要保護児童部会の取り組みについて要保護児童部会を、令和3年11月1日に開催いたしました。議事の内容としては、令和2年度三木市要保護児童の現状及び令和3年度要保護児童部会取組状況の報告、また、関係機関との連絡調整について情報交換を行いました。

報告事項では要保護児童の現状、相談件数、三木市要保護児童対策地域協議会の開催状況等について報告がありました。三木市の取組としては、児童虐待防止ネットワーク事業が実施されました。児童虐待防止ネットワーク事業は関係機関との連携強化、児童虐待の予防と早期発見を目的として、市内の保育所、園、小学校、中学校、特別支援学校を訪問し、要支援児童などの情報共有を行っております。また、訪問の際に児童生徒にリーフレット等を配布して、虐待防止の周知に取り組んだということでございます。

関係機関の連絡調整では、三木市における要保護児童への支援体制、兵庫県加東こども家庭センターの相談状況などについて説明がありました。また、関係機関の代表者の意見交換が行われました。要保護児童部会におきましては今後も児童虐待の早期発見、早期解決に向けた関係機関との情報交換、連携強化に取り組んで参ります。

会長

本日の事務局からの説明に対してご理解をいただいたということですのでよろしいでしょうか。

—意見なし—

## 6 閉会あいさつ

副会長

こんなにもみきっ子の未来のことを考えてくださる方がたくさんいらっしゃって本当に感激をいたしました。

本当に良い会議であったと思います。行政の方もやったださってますし、私たち三木市民もそれに負けずに色々意見を出してこれからも素晴らしいみきっ子を育てていきたいと思っております。ありがとうございました。

## 7 閉会